

患者様の声をリアルに聞くサービスのご紹介

株式会社メディキャンバス

会社概要・代表プロフィール

会社名	株式会社メディキャンバス
本社	大阪府大阪市北区梅田1-2-2 大阪駅前第2ビル12-12
東京オフィス	東京都中央区日本橋茅場町1-8-1 茅場町一丁目平和ビル7F
資本金	1,100万円
事業内容	『うちあけ』運営 患者コミュニティ運営
資金調達	KUSABI一号ファンド 日本政策金融公庫

代表	副田 溪 <i>Soeda Kei</i>
略歴	大阪大学薬学部卒 薬剤師（調剤薬局・病院研修経験） 調剤薬局で2年間勤務 患者様から薬や健康について相談を受ける Webマーケター（クリニック・薬局） ITコンサル（製薬企業）

メディキャンバス

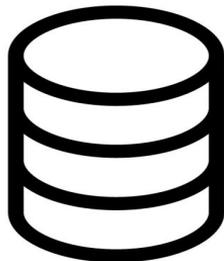
患者から得られた
体験談

患者個人との繋がり

データ活用

患者の体験をデータ化し次のサービス・薬に活かす

メディキャンバスの特徴



患者の定性データ

約15000件

- 患者インサイト
- 受診前の行動
- 患者の疾患名、使用薬剤
- 住まい、性別、年代



患者との直接の繋がり

約15000名

- 実際の疾患を持っている患者
- メールアドレス等の連絡先を保有

患者向けWebアプリ「うちあけ」



Point 1

自分の病気や症状などについて不安、不満を書き込むことで気持ちを軽く（うちあけ話）



Point 2

自分のうちあけ話にコメントやリアクションがつく



Point 3

疾患や症状について情報交換が可能



「うちあけ」に寄せられた声

クロナス症候群との向き合い

最近、クロナス症候群と診断されました。時間が早く過ぎるように感じたり、逆に止まったかのよう感じたりと不安に襲われていましたが、今は少しずつ自分の症状と向き合えるようになりました。

ジャンル: 神経 年齢: 30代 性別: 女性

RSウイルスの体験

娘がRSウイルスで緊急入院しました。今は無事回復していますが、咳が1ヶ月も続きとても心配でした。

ジャンル: 小児感染症 年齢: 30代 性別: 男性

ストレートネックによる頭痛

時々、後頭部を金槌で殴られたような痛みに襲われます。原因はストレートネックでしたが、治療で症状は少しずつ落ち着いています。

ジャンル: 神経 年齢: 30代 性別: 女性

全身性強皮症とエステマトーデス

全身の発疹と脱毛で不安な日々を過ごしていました。大病院で診断がつくまで時間もかかりましたが、今は薬で症状を抑えています。

ジャンル: 皮膚疾患 年齢: 30代 性別: 女性

憩室炎のつらさと対策

憩室炎は本当に厄介です。1年に数回発症してしまい、食事管理を徹底しています。野菜を多く取り、脂っこいものは控えるようにしています。

ジャンル: 消化器 年齢: 40代 性別: 男性

内痔核の長い闘い

長年にわたり内痔核の痛みと出血に耐え、出産をきっかけに悪化し、ついに手術で完治しました。場所が場所だけに誰にも言えずにいたけれど、やっと普通の生活に戻ることができました。

ジャンル: 尿路・肛門 年齢: 40代 性別: 女性

小脳萎縮症との向き合い

めまいやふらつきが続き、最終的に小脳萎縮症と診断されました。認知機能に誤解されがちですが、リハビリや趣味を通じてできる限り前向きに生活しています。

ジャンル: 神経 年齢: 50代 性別: 女性

アレルギーと付き合う日々

様々なアレルギーや精神的な不調に悩んできました。理解されにくい苦しさもありましたが、自分なりの対処法で少しずつ受け入れてきています。

ジャンル: 皮膚・精神 年齢: 20代 性別: 女性

頻尿と夜間のつらさ

夜間頻尿や日中のトイレの不安で生活に支障が出ています。泌尿器科で薬も使っていますが、完全には改善されず、外出先でも常にトイレを気にしてしまいます。

ジャンル: 尿路・膀胱 年齢: 40代 性別: 女性

データについて

疾患別データ

疾患系

腎臓:慢性腎不全(390名)
骨:骨粗鬆症(290名)
関節:関節リウマチ(590名)
生活習慣病:高血圧(790名)
生活習慣病:糖尿病(989名)
生活習慣病:脂質異常症(890名)
ホルモン:甲状腺機能亢進症・低下症(380名)
皮膚:全身性強皮症(35名)
神経:パーキンソン病(45名)
精神:統合失調症、うつ(1590名)

難病・希少疾患

潰瘍性大腸炎(120名)
心膜嚢胞(99名)
シェーグレン症候群(30名)
突発性多中心性キャッスルマン病(1名)
能動静脈奇形・水頭症(1名)
小脳萎縮症(8名)
古典型ファブリー病(5名)
ギランバレー症候群(10名)
全身型重症筋無力症(15名)
乾癬(25名)

悪性腫瘍

非ホジキンリンパ腫(10名)
急性骨髄性白血病(51名)
胃がん(190名)
乳がん(290名)
膵臓がん(90名)
大腸がん(68名)
食道がん(23名)
前立腺がん(109名)
子宮がん(289名)
多発性骨髄腫(24名)
グリオーマ(10名、小児)

乳がん患者さんの体験談

■ はじまりは「大丈夫だと思っていた」

2013年～2014年頃

教員として健康診断も受けていた。

胸にしこりを感じたが、「がんじゃないだろう」と思って放置。
しこりの模型と比べて、「自分は違うかな」と安心してしまった。
周囲から「心配なら病院行って」と言われたが、「心配じゃないから行かない」と判断。
食事でも普通にとれていたし、自分は大丈夫と思い込んでいた。

■ 少しずつ変わりはじめる体のサイン

2017年春～夏

しこりが大きくなってきた。ときどき「キューツ」と痛みが走る。
忙しさのせいで、自覚症状に気づきにくかった。
夏頃には「カチンコちん（硬い）」に。乳腺炎かと思った。

■ 病院へ。そして…まさかのステージ4

最初は街の婦人科を受診 → 大きな病院を紹介される。

横浜市立大学病院に1ヶ月ほど通院。

その後、労災病院に紹介 → すぐに診察 → 乳がんステージ4と告げられる。

転移あり（背中・骨・リンパ）。

看護師やカウンセラーが親身に対応してくれたのが救いだった。

■ 教員としての仕事と治療の両立

1年半は仕事を続けた。ストレスも多かったが頑張った。
お金も「使い切らなきゃ」と考えるように。

■ 抗がん剤治療スタート

2017年10月～

抗がん剤治療が始まった。
ドラマのような展開に戸惑う。「全身のがん」「手術はできない」と言われた。

治験に参加し、抗がん剤の効果が出て手術が可能に。

2018年お正月に左胸全摘出。

■ その後の治療と副作用

抗がん剤（ドセタキセル）や骨転移用の薬（ランマーク）パージェータ
その後、分子標的薬（ハーセプチン）を使用。

通院治療で継続。

副作用は…

吐き気、だるさ、体と心が離れていくような乖離感。

点滴は5～6時間。トイレも点滴つけたまま。

初日は意外と元気、でも2～3日目が一番きつい。

髪は抜けたが、ハーセプチンだけになってから生えてきた。

睡眠薬を使用して休息をとる日々。

■ 今、そして未来

ハーセプチンは終了。現在は年1回の定期検査。

松山で暮らしながら、「ちょっと先の未来」も考えられるように。

体験そのものが***“ミラクル”***。

■ 「人はいつか死ぬよ」なんて、簡単に言わないでほしい
乳がんを経験していない人の無神経な一言に傷ついたことも。

「人はいつか死ぬから同じ」と言われると、悔しくなる。
でも今、生きてる。それが何よりも大切なこと。



50代 女性 20代の頃に発症/発症してから10年近く経過/娘様が回答

	初期症状	受診行動	診療・診察	治療中	治療中の課題	予後 疾患の経過
状況	<p>最初は便に少し血がつく程度の血便があったが、気にせず半年ほど放置していた。徐々に血便の頻度や量が増え、便器の中が真っ赤になるような出血が見られるようになった。</p> <p>下痢とは異なる、生理痛のような痛みがあり。トイレの回数が増え、ひどいときは1日に数十回。「3歩で我慢できないくらい」「トイレの場所は必ずマークする」「子どもの送り迎えも大変」など、日常生活にも大きな支障をきたすように。それでも、「仕事が休めない」という理由で受診を見送っていた。</p>	<p>血便や腹痛の悪化、微熱の出現を機に病院を受診（茨城県・城西病院）。</p> <p>受診当日に即入院となる。</p>	<p>カメラで見た腸は「びっくりするほど綺麗じゃなかった」</p> <p>細いカメラなのに強い痛みがあり、「腸が裂けるかと思うくらい」</p> <p>麻酔をしても痛く、検査そのものが非常に辛い体験だった。</p> <p>最終的に潰瘍性大腸炎との診断を受ける。</p>	<p>初回入院時は絶食・点滴から開始 → 重湯 → おかゆと、段階的に食事を再開。約2週間の入院。</p> <p>処方された薬：ピオスリー、サラゾピリン、ステロイド。その後、炎症が治らずメサラジンに変更。</p> <p>入退院を3回ほど経験し、中学校の入学式にも出られなかったことがあった。2023年には別の病院（栃木県・自治医大病院）を受診し、再検査。</p> <p>その後、元の病院でエンタイビオ（静注薬）を導入。現在は8週に1回の投与、血液検査も併用。</p>	<p>初期の薬では効果が出ず、入退院を繰り返した苦しさ。</p> <p>エンタイビオを開始してからも、副作用のような関節痛が続いている。</p> <p>現在の治療薬（アミティーザ、ピオスリー、サラゾスルファピリジン、メチコパール、タリージェなど）の併用もあり、服薬管理が大変。</p> <p>ストレスや寝不足があると症状が再燃しやすいという不安もある。</p>	<p>エンタイビオの導入後、腸の状態は「ツルツル」になるほど改善し、ほぼ寛解に近い状態。</p> <p>現在は「何を食べても大丈夫」と感じるほど良好な体調を保っている。</p> <p>ただし、関節の痛みは残っており、完全な健康ではないという実感もある。</p> <p>今後も定期的な治療を続けつつ、無理しすぎないように日常生活を送る意識が必要だと感じている。</p>
感情						

弊社の特徴

豊富な患者情報

患者の年齢、性別、疾患名などを網羅的に収集した患者体験談データを1.5万件保有



患者のリアルな体験談

患者本人が記入した疾患の体験談論文や資料では出てこない「患者さんからしか聞けないリアルな痛み・お困りごと」を収集



患者個人との繋がり

患者数は15000人を超え、患者さんとの直接の繋がりを構築

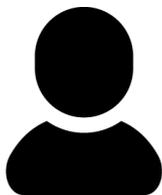


サービス提供

メディキャンバスの価値提供



患者の定性データ



患者との直接の繋がり



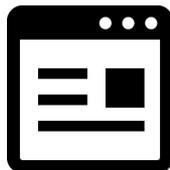
患者インタビュー

特定の患者に対してインタビューを実施
レポートとして納品



患者リクルート

特定の疾患を持つ患者をリクルート
データ収集&個別インタビュー



マーケティング支援

「患者の声」から「患者インサイト」を抽出
マーケティング施策に反映可能

患者インタビュー実績



がん 98名

期間:約6ヶ月



統合失調症 89名

期間:約7ヶ月



生活習慣病 150名

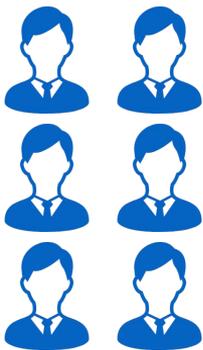
期間:約4ヶ月
糖尿病、高血圧



希少疾患 99名

期間:約6ヶ月
乾癬、重症筋無力症、IgA腎症、再生不良性貧血

座談会・個別インタビューの流れ



患者データベース

- ・約8000名の患者
- ・約10000の疾患



患者ピックアップ

- ・該当患者選定
- ・年齢、性別、疾患



インタビュー 座談会

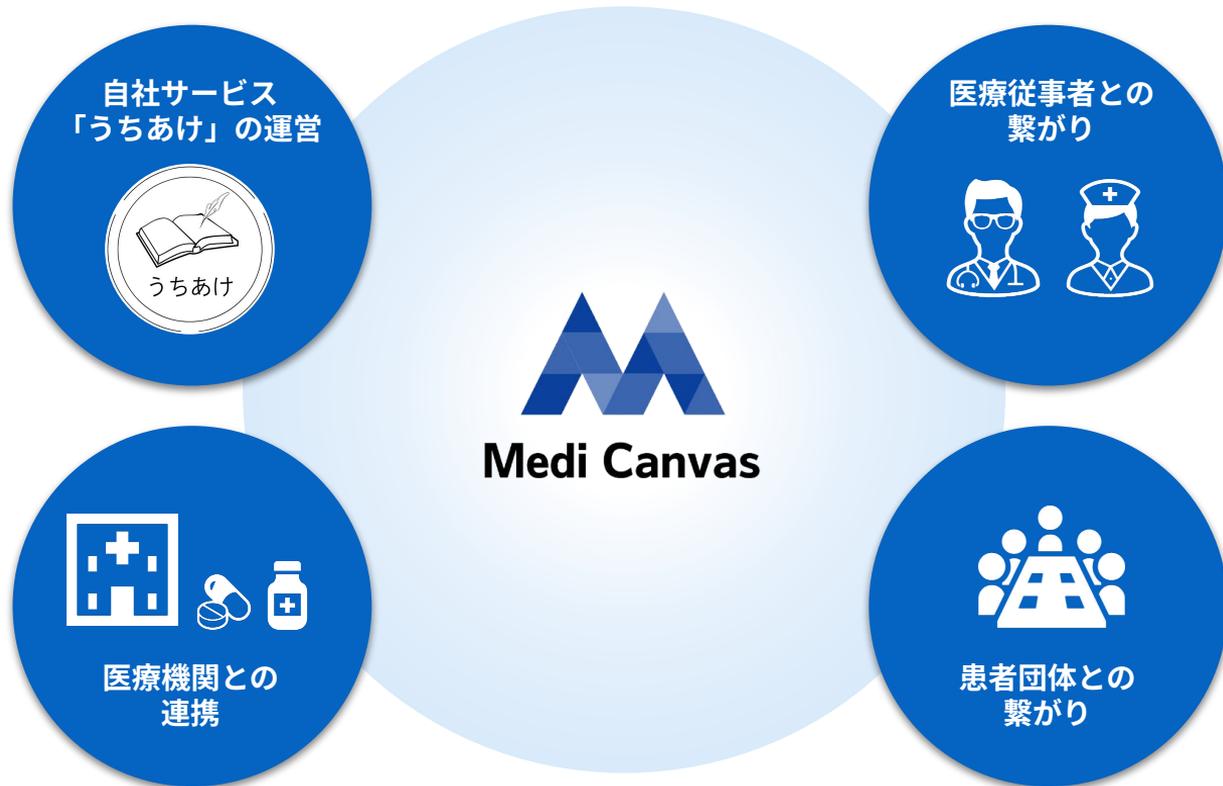
- ・薬剤師によるファシリテーション
- ・アンケートも可能



結果レポート

- ・概要レポート
- ・音声データ
- ・患者データ

新規患者のリクルート



多様なチャネルから患者さんとのコネクションを構築

メディキャンバスの価値提供



患者インタビュー

特定の患者に対してインタビューを実施・レポートとして納品

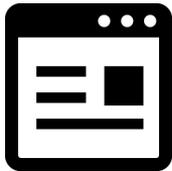
「うちあけ」に書き込んでいる患者のため「事前に概要把握した上でインタビューが可能」



患者リクルート

特定の患者を新しくリクルートし、インタビュー・患者体験データを収集

クライアントニーズに合わせて稼働可能



マーケティング支援

「患者の声」から「患者インサイト」を抽出

マーケティング施策に反映可能

→ **「患者さんのお困りごと」「何を求めているのか」**

患者の新規リクルート実績



血友病 20名

期間: 約2週間
パートナー: 製薬コンサル企業
用途: 患者ニーズ調査として使用



脳梗塞(リハビリ中) 2名

期間: 約1週間
パートナー: 千葉大学ベンチャー
用途: 患者の新規インタビューをするため



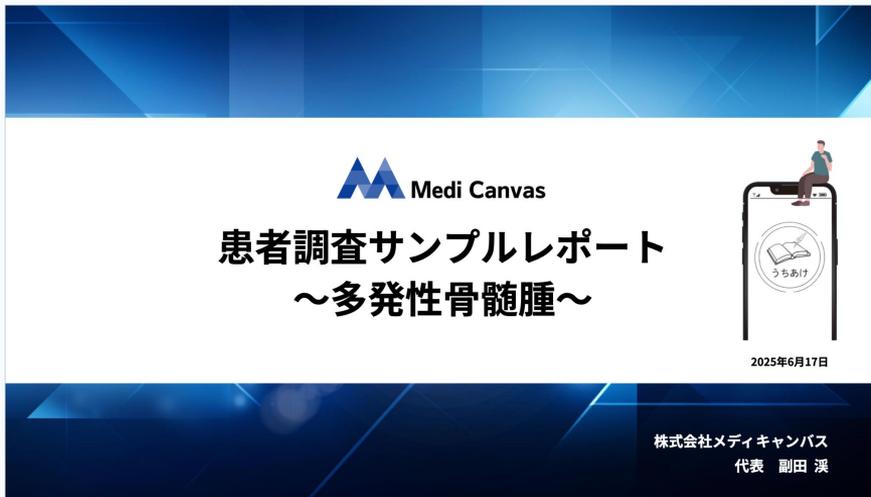
潰瘍性大腸炎 38名

期間: 約1ヶ月
パートナー: カルテベンダー
用途: 患者イベント設営のためリサーチ。2名がイベントに参加・患者として登壇



神経線維症 2名

期間: 約1ヶ月
パートナー: 製薬企業
用途: 患者情報調査のため



- ・患者へのインタビュー結果
- ・弊社のデータベースの統計処理データ
- ・傾向分析



2名～100名まで対応
100件～10000件まで対応

サービス提供

実際の費用感について

サービス	サービス概要	価格	内訳
患者体験談 (書き込み+インタビュー)	患者の体験談を提供 患者が書いた体験談+弊社でヒアリングした内容を提供	100,000円/個	患者体験談(1000文字~2000文字) インタビュー費用 内容チェック費用(薬剤師)
患者書き込み (書き込み)	患者の体験談を提供 ※インタビュー内容なし	30,000円/個	患者体験談(1000文字~2000文字) 内容チェック費用(薬剤師)
事前オーダー患者体験談	事前に患者の特性を指定条件に合わせて患者の探索 患者体験談の収集、インタビューを実施	200,000円/個	リサーチ費用 患者体験談(1000文字~2000文字) インタビュー費用 内容チェック費用(薬剤師)

患者体験談のイメージ



50代 女性

	初期症状	受診行動	診療・診察	治療中	治療中の課題	予後 疾患の経過
状況	<p>最初は便に少し血がつく程度の血便があったが、気にせず半年ほど放置していた。徐々に血便の頻度や量が増え、便器の中が真っ赤になるような出血が見られるようになった。下痢とは異なる、生理痛のような痛みがあり。トイレの回数が増え、ひどいときは1日に数十回。「3歩で我慢できないくらい」「トイレの場所は必ずマークする」「子どもの送り迎えも大変」など、日常生活にも大きな支障をきたすように。それでも、「仕事が休めない」という理由で受診を見送っていた。</p>	<p>血便や腹痛の悪化、微熱の出現を機に病院を受診（茨城県・城西病院）。</p> <p>受診当日に即入院となる。</p>	<p>カメラで見た腸は「びっくりするほど綺麗じゃなかった」</p> <p>細いカメラなのに強い痛みがあり、「腸が裂けるかと思うくらい」</p> <p>麻酔をしても痛く、検査そのものが非常に辛い体験だった。</p> <p>最終的に潰瘍性大腸炎との診断を受ける。</p>	<p>初回入院時は絶食・点滴から開始 → 重湯 → おかゆと、段階的に食事を再開。約2週間の入院。</p> <p>処方された薬：ビオスリー、サラゾピリン、ステロイド。その後、炎症が治らずメサラジンに変更。</p> <p>入退院を3回ほど経験し、中学校の入学式にも出られなかったことがあった。2023年には別の病院（栃木県・自治医大病院）を受診し、再検査。</p> <p>その後、元の病院でエンタビオ（静注薬）を導入。現在は8週に1回の投与、血液検査も併用。</p>	<p>初期の薬では効果が出ず、入退院を繰り返した苦しさ。</p> <p>エンタビオを開始してからも、副作用のような関節痛が続いている。</p> <p>現在の治療薬（アミティーザ、ビオスリー、サラゾスルファピリジン、メチコパール、タリージェなど）の併用もあり、服薬管理が大変。</p> <p>ストレスや寝不足があると症状が再燃しやすいという不安もある。</p>	<p>エンタビオの導入後、腸の状態は“ツルツル”になるほど改善し、ほぼ寛解に近い状態。</p> <p>現在は「何を食べても大丈夫」と感じるほど良好な体調を保っている。</p> <p>ただし、関節の痛みは残っており、完全な健康ではないという実感もある。</p> <p>今後も定期的な治療を続けつつ、無理しすぎないように日常生活を送る意識が必要だと感じている。</p>
感情						

患者体験談のイメージ



30代 女性

	発症前の生活	初期症状 2010年8月（19歳）	診療・診察 2011年3月	治療期間1 2011年3月～	治療期間2 2011年5月	予後 2020年～
状況	<p>大学生活を送っていました。ごく普通の大学生活を送り、1年生の時からバスケット部に入部し、勉強、運動をしていたと思います。</p> <p>特に暴飲暴食などはせず、持病もありませんでした。親族での免疫疾患等の既往歴もなかったです。</p>	<p>2010年8月ごろから血便が出現していました。それでも痔かな？と思ったので放置していました。大学では座学も多かったためそのせいもあったのかなど。11月ごろから便秘と共に血が出るようになり、トイレから出られないことが増えました。</p> <p>近くのクリニックに行くと「胃腸炎」と言われ胃薬と整腸剤をもらいましたが全くおさまらず、血便が続きました。</p> <p>何十回もトイレに行く感じが、多い時には30回以上もトイレに行くことが多く、日常生活は無理な状態でした。</p>	<p>胃腸炎の薬を飲み続けていましたが全くよくなりなかつたため、別の大きい病院に行くこと全大腸炎症型の潰瘍性大腸炎と診断されました。</p> <p>即入院となりました。</p>	<p>2011年の3月に入院して治療が始まりました。最初は痛みが強かったためロピオンで痛みを緩和しながらプログラフやステロイド点滴を行い、大腸の炎症を止めるようにしました。</p>	<p>ステロイド治療を続けながらGCAPをしていました。そのタイミングで栄養が少し不足してしまい、低血糖状態となり、エネルギー補給の高カロリー輸液をしました。また、免疫が下がっているため、肺血栓にもなりました。</p> <p>なんとか症状が落ち着いてきたため5月ごろに退院することができました。その後は、ステロイド治療のために入退院を続けながら症状も回復傾向にありました。その後9年ほどステロイドによる治療を続けました。</p>	<p>ステロイドによる治療を続けていると、ほっぺが浮腫んだり、できものが出てきたりと副作用が気になりました。退院期間中に「レミケード」を試してみることにになり、自分の体に合っていたため薬を切り替えるようにしました。</p> <p>そこからは定期的に採血をしながらレミケードによる治療を続けています。</p> <p>症状は一般的な生活が送れるようになり、自分の生活のペースも掴めるようになっていきます。</p>
感情						

患者体験談のイメージ



60代 男性 脳梗塞を経験し右半身が麻痺状態に

発症前の生活

営業職を日常的にしており、日頃から長距離を歩いたり移動することが多かった。

それまでの健康診断では一度も検査で異常値になったことがなく、客観的に見ても「健康」そのものであった。

自分も体に違和感等は全くなく、とても健康で健全な毎日を過ごしていた。



初期症状

朝起きてトイレに行こうとしたところ、左足がつかったような感じがして倒れた。左半身に力が入らず、家族の力を借りても立ち上がることができなかった。

自覚症状なし。妻が救急車を呼んで、済生会富山病院へ搬送された。



診療・診察

救急搬送後、頭部MRI・MRAが行われた。右大脳の脳梗塞で、生命に関わると説明を受けて、そのまま入院となった。集中治療室に運ばれ、点滴と投薬治療を受けた。



治療期間1

1週間はまともに話せず、左半身が動かなかった。行動制限の説明を受けて、ずっとベッド上だった。2週間後、話せるようになって一般病棟へ移った。身体が思うように動かずオムツをしていた。食事は柔らかいものだった。

リハビリが始まり、介助を受けながら車椅子に乗ることができるようになった。担当医より、リハビリを続ければよくなる人もいると言われ、回復期病院への転院を勧められた。急性期での治療が終わり転院した。2か月程入院した。



治療期間2

入院中、集中的に理学療法・作業療法が行われた。歩行訓練をして、徐々に歩けるようになったが、右手で杖を使い、左足には短下肢装具を装着しないと歩けなかった。時間はかかるが、着替えや入浴以外の身の回りのことができるようになった。左手は動かず、医師からは上肢の機能回復は厳しいと言われた。注意や集中力が持続しないため、適宜休息をとるよう指示を受けた。これ以上は悪くならないようにすることが重要と説明を受け、リハビリは終了し退院となった。抗血小板薬、緩下剤、胃薬は継続して服用する必要があると言われ、定期通院することとなった。身体障害者手帳2級の交付を受けた。3か月程入院した。



予後 疾患の経過

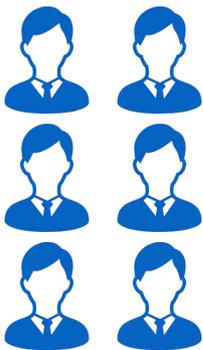
退院後は月1回通院し、内服処方してもらっている。頭痛と、慢性的な疲労感や倦怠感が続き、一日中何もできない日が多い。医師より仕事は休むように言われ、続けることができなくなり退職することとなった。日中、リハビリを兼ねて介護保険サービスの通所介護を時々利用している。周りから注意が抜けていると指摘を受けることが多くなり、病院で再検査が行われた。高次脳機能障害が悪くなっているため、訓練が必要と言われ、リハビリが始まった。一つ一つの動作に時間がかかり苦労している。着替えや入浴、服薬管理など家族の援助を受けて生活している。



状況

感情

事前オーダー患者体験



患者条件指定

- ・年齢、性別、住まい
- ・疾患



患者選定

- ・条件に合う患者を事前にピックアップ
3名～10名程度



体験談取得 インタビュー実施

- ・薬剤師によるファシリテーション
- ・アンケートも可能



結果提供

- ・概要レポート
- ・音声データ
- ・患者データ

弊社が提供可能なメリット

納品までの速さ

- ・患者体験談については取得済みの体験談を資料化、共有するため3日以内の提供可能
- ・事前オーダー体験談も1ヶ月で納品可能



インタビューの実績

- ・これまでに約200名の患者様にインタビューを実施（創業から1ヶ月20名を実施）
- ・薬剤師が患者インタビューをする安心感



患者個人・医療機関との繋がり

患者数は15000人を超え、患者さんとの直接の繋がりを構築
新しい患者リクルートが可能



患者の新規リクルート実績



血友病 20名

期間: 約2週間

パートナー: 製薬コンサル企業

用途: 患者ニーズ調査として使用



脳梗塞(リハビリ中) 2名

期間: 約1週間

パートナー: 千葉大学ベンチャー

用途: 患者の新規インタビューをするため



潰瘍性大腸炎 38名

期間: 約1ヶ月

パートナー: カルテベンダー

用途: 患者イベント設営のためリサーチ。2名がイベントに参加・患者として登壇



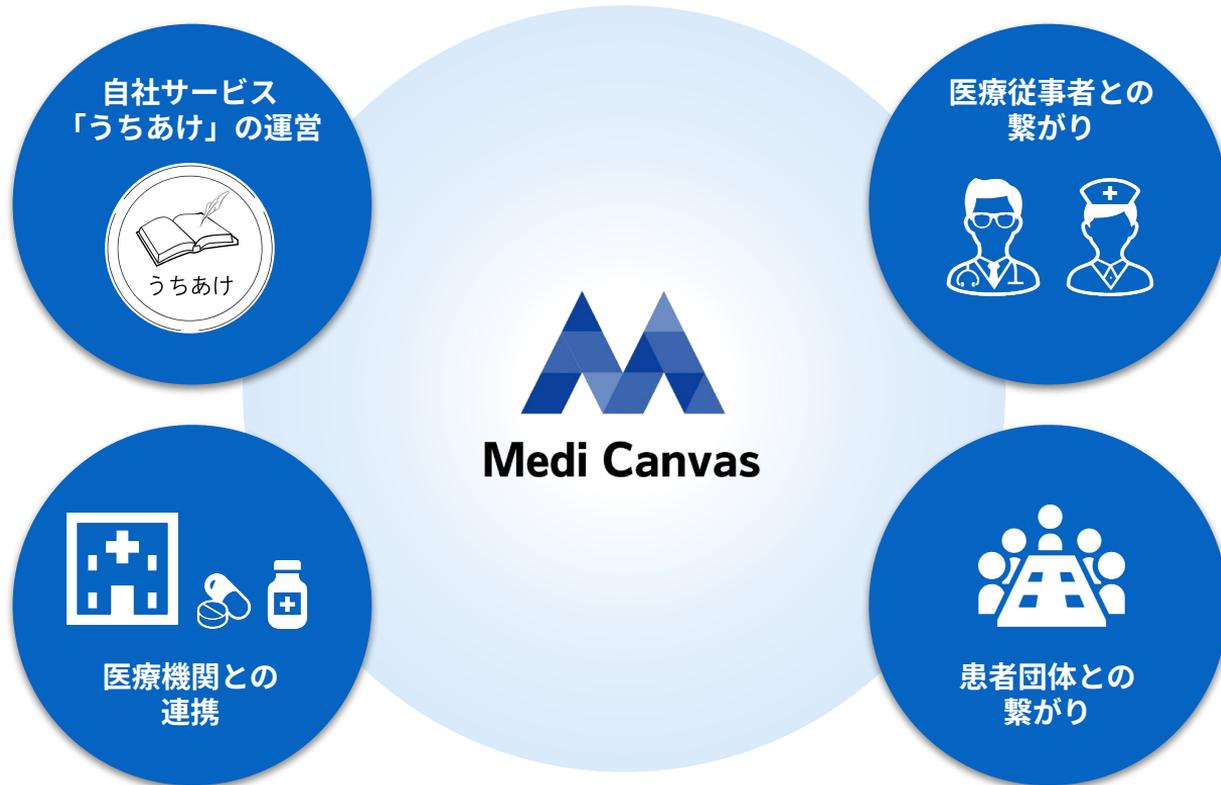
神経線維症 2名

期間: 約1ヶ月

パートナー: 製薬企業

用途: 患者情報調査のため

弊社のネットワーク



多様なチャネルから患者さんとのコネクションを構築